

デジタル社会における「デジタル・デトックス」を実現する 工芸・工学の連携研究

名前：力石 武信 (ちからいし たけのぶ)

所属：東京藝術大学

専門分野：ロボットアート、HRI, アンドロイド

自己紹介：ロボットアート、人間とロボットの相互作用に興味があります。近年は、舞台や映画だけでなく、アート指向のロボット作成や、ロボットアートを用いた社会課題へのアプローチに力を入れています。

連携希望：どんな研究でも、独自の「世界観」があると思います。その世界観を提示することは、そのままアートとしての「気づき」になると思いますので、自分達の研究を開かれた場にしたい方は、ぜひお声かけ下さい。



近い未来、我々の社会は、Society5.0が唱えるように、急速にデジタル化していくことが予想される。我々はすでに、メールやPCといったデジタル技術に囲まれた労働・生活環境の中で暮らしているが、デジタル化した環境は、非常に便利で使い易いものである一方、**情報システムが生む環境と、人間の自然な行動や心地良さと相容れないギャップ**があり、日々、多大なストレスを感じている。よって、人と情報システムがうまく調和するために有効な手段を見つけることは、拠点の目標である「心の豊かさ」を目指すことであり、「豊かな生活環境」を実現し、次世代に向けた文化的インフラの整備に対して非常に有意義な手段となる。

現在、我々はAIやロボットなどの新しいデジタル技術により、**歴史上初めて「主体的な世界を持たずに、主体的に振る舞うシステム」あるいは「人間の内的体験について、深く洞察されていない自律システム」との付き合いを始めたばかり**であり、その付き合い方についての課題に取り組むことが急務である。

そこで、我々は、**科学技術に加えて人間の主観的世界・内的体験を扱ってきた芸術の手法を用いる**ことにより、デジタル技術が人間にストレスを与える要素を見直し、幸福を増やす手法を実現することができると考える。これを体内の有害物の排出を促し、健康を目指す民間療法である「デトックス」と同様に、**芸術による「デジタル・デトックス」ととらえ、デジタル技術と人間の調和の実現を目指す**。

1) 力石武信「芸術とロボティクス」日本ヴァーチャルリアリティ学会誌 特集 心とVR—ポジティブコンピューティング—

23巻 1号 pp.35-38, 2018.4